

趣味のひとつ オールディーズ

第2巻 ポップグループ時代の幕開け

「オールディーズ」は「1950年代から1970年代頃までの英語圏のポピュラーミュージック」と言われます。その頃青春時代を過ごした方は若き日を思い出しながら、お読み頂けると幸いです。今回は日本で流行った、日本の歌手がカバーしたオールディーズを特集しましたが、今回は本場アメリカのオールディーズに眼を向けましょう。ヒットチャート・ランキングは全米ヒットチャート「ビルボード誌」（以下B誌）を参考にしています。

◆ブラターズ頑張る

1950年代後半のB誌年間ランキングを見ると、エルヴィス・プレスリー（1935年生）、パット・ブーン（1934年生）やポール・アンカ（1941年生）に代表されるソロ歌手が多く名を連ね、「峠の幌馬車 Wheels」で有名なビリー・ヴォーン楽団のようなビッグバンド以外に、グループはほとんど登場していません。その中でブラターズは「オンリー・ユー」「煙が目にしみる」等のヒット曲を出し、唯一と言って良いほど頑張っていました。1960年代に入っても1960年と1961年の年間ランキングではソロ歌手が太宗を占めポップグループは肩身の狭い思いをしています。ちなみに1960年のB誌年間ランキング第1位はパーシー・フェイス楽団の「夏の日の恋 Theme from A Summer Place」でした。この曲は何と9週間に亘り1位を守っていたので、ブラザース・フォーの「グリーン・フィールドズ」はヒットしたのですが2位止まりで、とうとう1位にはなれませんでした。

◆ポップグループ時代の幕開け

1962年9月15日付B誌でフォー・シーズンズのデビュー曲「シェリー」がB誌第1位になり、ポップグループの時代が幕を開けました。フランキー・ヴァリ（1934年生）のファルセットヴォイスを前面に出し、「恋はやセがまん **Big Girls Don't Cry**」「恋のハリキリ・ボーイ **Walk Like a Man**」とデビュー曲から3曲続けて第1位を記録する金字塔を打ち立てます。（シュープリームスが64年から65年にかけて5曲連続で第1位を記録していますが、デビュー曲からの連続ヒットではありませんでした。）日本でも九重佑三子（昭和21年生）がパラキンのメンバーとして「シェリー」を歌いヒットさせましたね。昨年、クリント・イーストウッド（1930年生）監督の“**ジャージー・ボーイズ**”が公開され、フォー・シーズンズのメンバーがどんな環境で育ち、名声を得て行くか知ることがで

きました。

◆アメリカ人のイギリス嫌い

パラキン (*) と言えば、1963 年 6 月 15 日、坂本九（昭和 16 年生～昭和 60 年没）が「スキヤキ」で日本人初の B 誌第 1 位を記録しました。アメリカ人は基本的に自国のポップスしか興味を示さず、外国人の曲が B 誌第 1 位になるのは珍しい時代です。例えば日本でも人気があったクリフ・リチャード（1940 年生のイギリス人）はアメリカでは全く人気がありません。代表曲「コングラチュレーション」はイギリスでは 1 位を獲得しましたが、B 誌での最高位は 99 位と言うありさまで。クリフは“所詮、エルヴィスのモノマネさ…”とアメリカ人は気に入らなかったようです。ニューヨークに住んでいた頃、いろいろなレコード店で探しましたが、とうとうクリフの CD は見つかりませんでした。そんな偏見一杯のアメリカ人に「上を向いて歩こう」が受け入れられたのは日本人として嬉しい限りです。（*）パラキン：ダニー飯田とパラダイス・キングの通称。坂本九も加入していました。

◆ビートルズのデビュー

1964 年 2 月 1 日、この日はポップスの歴史が変わった日です。B 誌で、ビートルズの「抱きしめたい」が第 1 位になりました。以後の快進撃はご存知の通りで、その年の 4 月 4 日には、「キャント・バイ・ミー・ラブ」「ツイスト・アンド・シャウト」「シー・ラブズ・ユー」「抱きしめたい」「プリーズ・プリーズ・ミー」が B 誌ヒットチャートの 1 位から 5 位までを独占するという快挙を成し遂げました。さすがのアメリカ人もビートルズ（イギリス人）の魅力と実力は認めざるを得なかったようです。この年の年間ランキング上位 25 位中、7 曲をビートルズが占め、アメリカ合衆国の独立以来、再びイギリス人がアメリカを征服した年になりました。ビートルズに続きイギリスのローリング・ストーンズ、ハーマーズ・ハーミッツ、アニマルズ、キンクスなどが米国のヒットチャートを賑わせ、「ブリティッシュ・インヴェージョン」と呼ばれました。

ビートルズの全米第 1 位の曲は 20 曲と歴代最多で、2 位のエルヴィス・プレスリー（18 曲）を抜きました。この両スーパースターは 1965 年 8 月に、一度だけビートルズがロサンゼルス（ロサンゼルス）のエルヴィス・プレスリーの邸宅に招かれて会っています。その歴史的な顔合わせで、エルヴィスが“君たちのレコードは全部持っているよ…”と語り掛けた時に、ジョン・レノン（1940 年生）が“僕はあなたのレコードを一枚も持っていません”と答え、その場が凍りついたというエピソードがあります。

今回はいかがでしたか。懐かしんでいただけたでしょうか。次回はフォーク
ソング・ブームに眼を向けましょう。

<一口メモ>

日本では邦楽でも洋楽でも CD に歌詞カードが付いているのが普通ですが、
アメリカでは“聞けば判るでしょ…”と歌詞カード無しが多いです。CD ジャケ
ットの表は写真、裏は曲目だけのペラペラ一枚紙で安上がり、そのためかどう
か CD の価格も安い物では 5 ドル台で手に入りました。レコード店だけでなく、
書店やコンビニの片隅にも CD コーナーがあったので、見るとつい欲しくなり
オールディーズの CD を沢山買って、CD と映画のビデオで段ボール箱をいっぱ
いにし帰国しました。